

3,300の巣立ちを支えて63年! ありがとう立花愛児園

昨年来、本紙でお知らせしてきましたが、松田町唯一の認可保育所である立花愛児園は、今月末で閉園します。63年の長きにわたって町の保育を一手に支えてこられた同園に対し、感謝の意を表するとともに、その歴史などについて紹介します。

【問い合わせ】健康福祉課子育て支援係 ☎(83)1226



戦後の混乱期に 足柄上地域で最初の設立

児童福祉法が施行されてわずか2年後の昭和24年、戦後間もない世の中はまだまだ衣食住に困窮する混乱期にありました。このような時代にあつて、立花愛児園は、(故) 込山弥六氏により設立されます。場所は、松田女子高等学校内(現在の松田中学校横)で60人の定員でした。

初代園長の(故) 込山安子氏は、教育者として、また青少年の健全な育成に携わってきた経験をもとに「世の中が混乱しているからこそ、将来を支える子どもたち、とりわけ幼児教育が大事である」との信念に基づき、足柄上地域では最初の保育所が誕生しました。

開園当初より長時間保育を行い、給食の提供や音楽による情操教育にも力を入れられてきました。

ピーク時の
卒園生は
100人に

開園後、園児数の増加に伴い施設が手狭となったことから、昭和33年現在の場所(松田物領965)に園舎を建設し移転します。

二代目園長である(故) 込山起一郎氏が就任した昭和49年以降は、第二次ベビーブームもあり園児数は一学年で150人近くに上った時期もあったそうです。その後、町立幼稚園の設立や少子化の影響もあり、入園児は減っていきませんが、同園を巣立った園児は、3300人を超えます。



旧園舎前に並んだ児童たち

同園の保育目標は、「考えてやれる子・丈夫な子・やさしい子」であり、理念、方針には「豊かな人間性と創造性を養うと共に、集団生活の中で習慣形成の基礎をつくり、年齢に従った自立と成長を助ける」とあります。

「しつけ」を
大事に
自立と成長を
助ける

子育てにおける「しつけ」の概念は、時代とともに変わってきているかもしれませんが、園では、設立当初から一貫してきめ細やかな「しつけ」を大事にされ、保育を担ってこられました。

また、長年にわたる保育経験を生かしたカリキュラムには、音楽リズムの他にも英語教育やスイミングなども取り入れ、保護者の多様なニーズに



和太鼓の演奏をする児童たち(平成20年敬老会)

特に和太鼓は、保育士も熟練し、町の催しなどでその力強い演奏を聴かれた方も多いのではないのでしょうか。

ありがとう
そして
さようなら
立花愛児園

紹介していただき、立花愛児園は、町立幼稚園の無い時代から長きにわたって、町の子育てを確固たる信念のもと献身的に支えてくださいました。閉園は非常に残念なことであり、町としても感謝の念が尽きることはありません。

閉園のごあいさつ

昭和24年、込山弥六氏により、足柄上地域で初めての保育園でありました。立花愛児園を設立しました。初代園長込山安子氏の「人間教育の礎は幼児期に」との高い志のもと保育園を運営して参りましたが、早いもので63年の歳月が流れました。戦後の混乱期から、昭和平成へと激動の時代へ社会の発展に伴い、生活は豊かで便利になりましたが、その半面価値観の多様化が進み、教育の質や家庭のあり方が問われる難しい世の中になりました。立花愛児園では、開園当初より一貫して乳幼児の成長、発達には整った環境と深い愛情、そしてなによりも適切なしつけを大切に考えてきました。楽しい園生活の中、共に学び、共に笑い、共に泣き、

一人一人と真剣に向き合いながらその成長を温かく見守り、送り出した子どもたちの数はこの春で3300人にもなりました。

このたび、惜しまれつつも閉園の運びとなりました。決して平坦ではなかった道のりも行政をはじめ、地域の皆さま、保護者の皆さま、先生方、応援していただきました多くの方々のおかげで、何とか歩んで来られましたことを、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

そして何より立花愛児園を巣立っていった卒園生達の幸せを心よりお祈りしてごあいさつとさせていただきます。

立花愛児園理事長
込山和子

卒園生からのメッセージ

◆愛に育まれて
5回生 内藤恵子さん
立花愛児園(当時は保育園)に在籍していた2年間、私の両親は共働きでした。朝、母の実家に寄り、近所の仲良しのHちゃんと一緒に通園し、母が勤めから帰るまで、母の実家にいました。大雄山最乗寺への遠足の時は、祖母が付き添ってくれたのもうれいことでした。

卒園時の先生方との集合写真を見ると、込山安子園長先生はじめ他の先生方のお声が今もはつきりと懐かしく思い出されます。戦後十年も経たない時代で、何かと大変な事が多かったと思いますが、私自身、地域の方々、園の先生方、祖母の家族、両親に温かい大きな愛で育ててもらったことに、心から感謝しています。

このたび、閉園ということですが、寂しさを感じていますが、卒園生として、いつまでも、よき思い出を大切にしていきたいと思っております。

◆心に残るもの
31回生 吉山登行さん
立花愛児園が閉園すると聞き、非常に残念な思いと、さみしい気持ちになりました。子ども3人がお世話になったことはもとより、私自身も卒園生のため、育った場所がなくなるといふものは感慨深いものがあります。

正直、私が通っていたころの記憶は、毎日友達と遊んだことや、運動会・お遊戯会の楽しい思い出が残っていませんが、近年では和太鼓・英語・スイミングなど、親から見ても魅力的な活動をしていただき、子ども達にとっては心に残るものも多かったのではないのでしょうか。

また、生活の半分を保育園で過ごす子どもたちにとって、この時期は非常に重要であり、善悪の判断・集団生活での経験は将来を大きく左右すると思われまふ。最近では親ですら我が子を叱れないといわれている中、子どもに対してきちんと叱ることができる保育園であったと思うと同時に、園長先生をはじめ、諸先生方のご尽力に感謝いたします。